

第42回経済学会賞（本行賞）審査講評

第42回経済学会賞には8本の論文の応募があり、いずれも応募者の学習と研究の成果を示す、高い水準の作品であった。審査委員会は、厳正な審査の結果、優れた論文として、以下の優秀作1本及び佳作1本を選出した（いずれも全編英語による論文）。

優秀作

花澤 楓（経済学部4年）

“Welfare Effects of Self-Preferencing by Online-Platform: Empirical Evidence from Airbnb”

佳作

稲村 太陽（経済学部4年）

“Pareto-dominant Stable Matchings under Distributional Constraints and Indifferent Priorities”

以下、受賞論文にたいしての講評を記す。

優秀作に選ばれた花澤氏の論文では、Airbnb による自己優遇 (self-preferencing) が社会厚生に及ぼす影響を分析している。ここでいう自己優遇とは、Airbnb が個々のホストの利益最大化ではなく、プラットフォーム全体の手数料収入を最大化する目的で価格アルゴリズムを操作する行為を指す。本研究では、この自己優遇が社会厚生に与える影響を評価するため、Airbnb のホストとホテルとの間における差別化された製品のベルトラン競争モデルを構築した。独自に収集した東京都 23 区のデータを用いてモデルを推定し、反実仮想シミュレーションを行った結果、Airbnb の自己優遇によって社会厚生は平均 5.08% 減少し、これは 2023 年の東京におけるバケーションレンタル市場規模の約 14.90% に相当する年間損失に当たることが明らかになった。一方で、Airbnb の手数料収入は平均 37.73% 増加しており、プラットフォーム主導の収益最適化と市場効率性の間に重大なトレードオフが存在することを示唆している。あわせて、このようなプラットフォーム企業の行動に対しては、競争政策上の規制や、アルゴリズムに対する透明性と説明責任の向上が求められることが示された。

本研究では理論モデルを構築し、独自のスクレイピングによって収集したデータを用いてパラメータを推定したうえで、政策的に重要なプラットフォームの自己優遇を厚生面から評価しており、実証研究としての完成度も高い点が複数の審査委員より高く評価された。ただし、通常想定される自己優遇の概念と、本論文で用いられている自己優遇の定義には差異があるため、その点の修正が必要となる。いずれにせよ、データと理論の両面からプラットフォームの行動を深く分析した優れた研究であり、適切な修正を施すことで、学術論文としての刊行が十分に期待できる内容である。

佳作に選ばれた稲村太陽氏の研究は、優先順位が同順位を含み、かつ分配制約が存在するマッチング問題において、安定マッチングの構築を理論・計算の両面から探究したものである。本論文では、既存理論では対処が難しい設定に対して、パレート優越な安定マッチングを効率的に導く新たなアルゴリズムを提案している。また、このメカニズムは戦略的な操作にも強く、制度設計上の公平性・信頼性の観点からも有用であることが示されている。理論の厳密性と実装可能性を高いレベルで両立させた本研究は、マッチング理論への学術的貢献にとどまらず、教育や医療など公共的な資源配分制度の改善にも資する意義深い成果である。

2025年3月25日

第42回経済学会賞(本行賞)審査委員会

審査委員長： 山崎圭一

審査委員： 猪野明生, 加藤隆太, 陳雨婷

第42回経済学会賞(本行賞)受賞者メッセージ

花澤 楓

本行賞優秀作に選出いただきありがとうございます。

本論文の執筆にあたり、鶴岡先生および古川先生には、リサーチクエスションの設定から文章の構成に至るまで、終始丁寧なご指導を賜りました。お二方からの貴重なフィードバックを重ねることで論文を改善することができました。また、先生方のゼミを通じて得た学びも、本研究および私自身の成長に大いに寄与いたしました。心より感謝申し上げます。

横浜国立大学経済学部で学んだ多くのことを人生の糧として、今後も研究を続けていきたいと思っています。

稲村 太陽

この度は本行賞佳作に選出していただき大変光栄に思います。

今回の卒業論文は指導教官である熊野太郎先生の手厚いサポートなしでは決して書き上げられませんでした。私は学部2年生の冬から先生のご指導を賜り、大変長い時間面倒を見ていただきました。また、今年から横国に赴任された石田先生をはじめとする、熊野先生の元門下生の皆様にも大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

最後に、金銭面で学業に支障が出ないようサポートしてくれた父、帰宅が遅くなっても毎日温かいご飯を作って待っていてくれた母に感謝の気持ちを伝えたいと思います。